

「生活者としての外国人」のための日本語教育ワークショップ
(第三分科会) 2013年11月23日 福岡

私たちの日本語教室・日本語教育 プログラムを点検しよう！

ー指導力評価に関するチェックシートを活用して
PDCAサイクルを回そうー

金田智子(日本語教育小委員会委員, 学習院大学)

「点検」？

- ・ガス、排水設備の点検

＝不具合はないか？ あれば直す。

- ・海外旅行の持ち物リストのチェック

→同じところに行く場合でも、人によって異なる「持ち物リスト」

- ・優先順位、用心深さ、その人の役割、等

→同一個人でも、「いつも同じ」ではない

- ・時期、期間、目的、目的地、慣れ、状況(薬等)、等

→リストを見ずに荷作りできるようになる

→他人が作ったリストが助けになることも

→時とともに新たに加わる項目も

☆海外旅行の持ち物リスト＝「旅をよりよくするためのもの」

「よりよい旅人になるためのもの」

私たちの日本語教室・日本語教育 プログラムを**点検**しよう！

—指導力評価に関する**チェックシート**を活用して
PDCAサイクルを回そう—

第三分科会の目的

- ・日本語教室／日本語教育プログラムを振り返る方法の一つとして、「指導力評価に関するチェックシート」を活用方法を検討する

- ＊ その際に、「チェックシート」と「PDCAサイクル」が手段・方法となる

第三分科会の流れ

1. 「5点セット」について
2. 「指導力評価」の考え方について
3. 自分について振り返り
4. 振り返りの共有・整理
5. チェックシートを見てみよう
6. 自分の目標を立ててみよう
7. PDCAのタイミングを考えよう
8. おわりに

1. 「5点セット」について

- 0. ハンドブック(試行版)(報告書全体の確認)
- 1. 標準的なカリキュラム案(何を学び教えるか)
- 2. ガイドブック(いかに学び教えるか)
- 3. 教材例集(いかに学び教えるか)
- 4. 日本語能力評価(学びをどうとらえるか、どう促すか)
- 5. 指導力評価(教えること／学びを支えることをどうとらえるか、どう促すか)

前提

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標

<目的>

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り、生活できるようになる

<目標>

- 日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること

ことばの整理(ハンドブックP.3)

- 指導者、コーディネーター、協力者
- 生活上の行為
- 能力記述
- 行動・体験中心の教室活動
- PDCAサイクル

「指導力評価」の考え方

＜目的＞

「生活者としての外国人」に対する日本語教育をカリキュラム案等を活用して行う上で必要な能力について評価することにより、その向上を図り、「生活者としての外国人」のニーズにより一層応えうる日本語教育の実現につなげる

＜評価の対象(何を)＞

カリキュラム案等を活用して、地域の状況に応じた日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルに基づいて行う能力

＜評価対象者（誰を）＞

(1) 学習者に対する直接的な日本語の指導に携わる者（地域日本語教育指導者）

(2) 行政や地域の関係機関等との連携の下、日本語教育プログラムの実践（直接的な日本語の指導を除く）に携わる者（地域日本語教育コーディネーター）

＜評価者＞

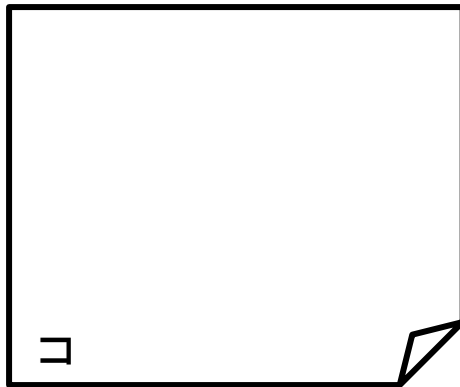
- ・自己評価が基本

＜評価の方法＞

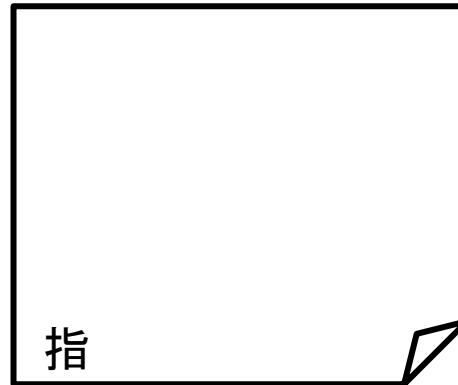
- ・指導力評価項目一覧から、実践者が自らの役割として必要な項目を選択し作成するチェックシートを用いる

3. 自分について振り返り

Q. 「地域日本語教育指導者」あるいは、「地域日本語教育コーディネーター」として、自分が果たすべき役割は何だと思っていますか。付箋紙1枚に1つの役割を書いてください。(10枚以内)



コ



指

4. 振り返りの共有・整理

- ・グループで、それぞれがどのような役割を挙げたか説明し合い、共通のもの、異なるものなど、整理をしてみてください。

5. チェックシートを見てみよう

・チェックシートを見て、先ほど、整理したものと比べ、新たに加えたほうがいと納得できるものを、異なる色の付箋紙に書き、先ほど整理したものの中に加えてください。

指導力評価項目一覧(一部)

Do(実施)

IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施

10. 日本語教室の運営

(14) 日本語教室の運営体制が適切である

41) 日本語教室の目的等を実施者の間で共有している

☐

☐

False

42) 日本語教室の運営に必要な作業を洗い出し、実情に即した運営体制を作っている

☐

False

43) 日本語教室に関する学習者の希望や意見を聞いている

☐

☐

False

44) 日本語教室の場所や時間、日本語教育プログラムの内容について定期的に実施者の間で検討している

☐

☐

False

45) コーディネーター、指導者、協力者の役割がそれぞれの間で理解され、十分にコミュニケーションが取れている

☐

☐

False

(15) 教室活動に必要な指導者を育成している

46) 指導者を育成するための研修を企画・実施している

☐

False

47) 外国人の指導者を育成するための研修を企画・実施している

☐

False

48) 外部で行われている講座やセミナーの情報を集め、指導者に紹介している

☐

False

(16) 日本語教室の意義や内容を伝えている

49) 地域住民の日本語教育への理解を得るため、日本語教室の意義や内容を広く社会一般に伝えている

☐

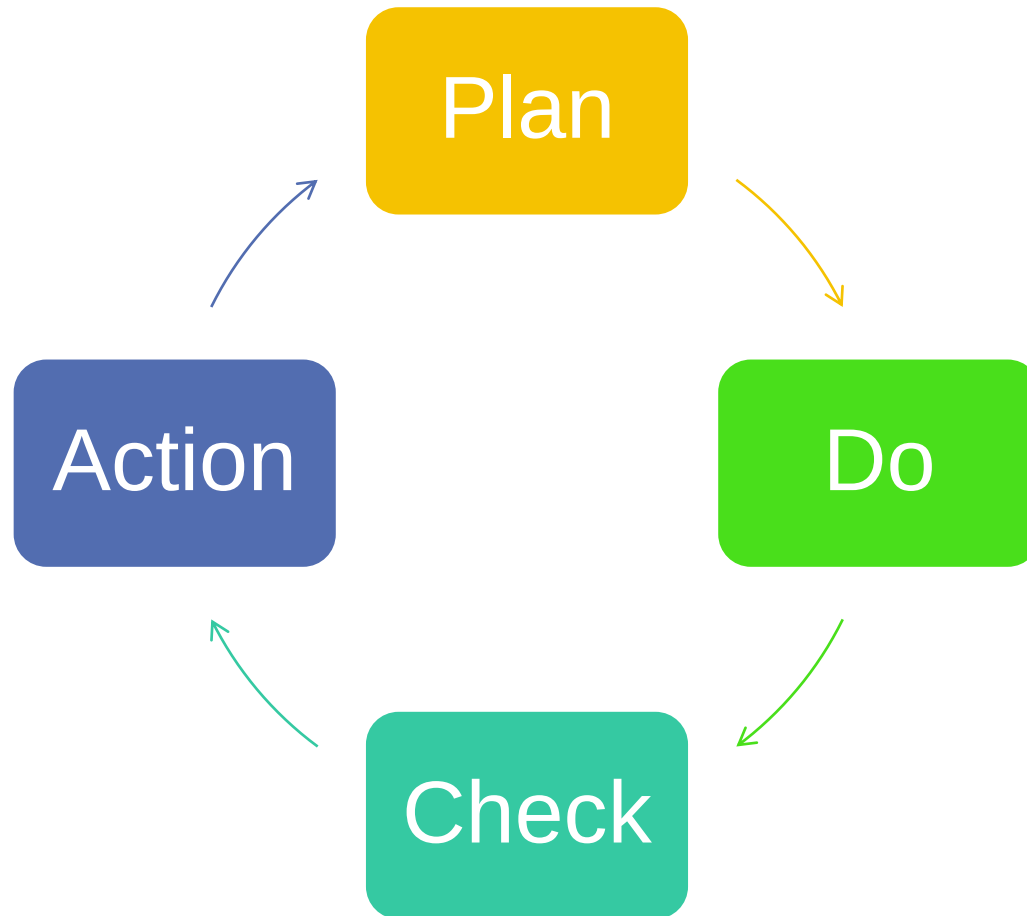
False

6. 自分の目標を立ててみよう

・グループで作ったチェックシートにある項目の中から、来週／来月といった近い将来、目指そうと思うこと(イニシャル＋○)を選んでください。半年後、1年後など、もっと後に目指してみようと思うこと(イニシャル＋☆)を選んでください。

☆指導力評価項目一覧からチェックシートを作る
には → [h25 hyoka ichiran.xls](#)

7. PDCAのタイミングを考えよう



8. おわりに

- 「点検」はいつでもできる
- 「点検」→「改善」は、できるところから
- 自己評価は、「一人で行うこと」ではない。
 - ・共通の観点において、複数の立場から、行うことも大切。
 - ・チェックリスト等から、新たな観点や異なる立場を意識することも大切

以上です。

ご協力、ありがとうございました。